

昭和十五年五月、日佛印協定に基く監視圏の佛領印度支那（以下佛印と略稱）への派遣に續いて九月兵力を北部佛印に進駐せしめてより昭和二十年八月終戦に至る五箇年間佛印に於ける軍事行動には特に見るべきものなきも情勢變化に依る戦略的地位の變化に伴ひ其の任務には數次の變遷あり今是を概観すれば左の如し

一、第一期 昭和十五年五月國境監視團の派遣より昭和十六年十二月太平洋戰爭開始前後迄にして此の期間前期に於ては専ら對支封鎖の爲の措置として限定兵力を北部佛印に駐屯せしめ後期に於ては米英支蘭の軍事的政治的經濟的連鎖の分斷及我國の自給自足經濟に寄與する爲第二十五軍主力を南部佛印に進駐せしめたり

二、第二期 概ね太平洋戰爭開始前後より昭和十九年十一月レイテ失陥頃迄とし此の間前期即ち昭和十七年五月兩方軍總司令部の新嘉坡前進迄は兩方軍の作戰基地並に指揮中樞と爲り後期は兩方軍の兵站並

に本土連絡の海運中継地として活動せり

二

三、第三期 中部比島の失陥より終戦に至る間とし佛印内に於ける自衛  
自活防衛態勢強化の時期にして前期即ち昭和二十年三月以前は日佛  
印共同し後期は我國に於て自王防衛準備に邁進せり

以上各期を通じ佛印に於ける施策は昭和二十年三月迄は日佛印共同防  
衛の精神に基く相互の協同關係より發足し特に主体は佛印側に在り爲  
に元來の非協力態度は戦況の我に非なるに従ひ更に協同關係にも虚隙  
を増大し我が施策遂行の爲苦心の存するもの多かりき

0614